豊中地区４０年間の伝統の火をつなぐ

浜嶋です。
おはようございます。
昨日、わっしょい TOYONAKA まつりが４０４人の参加の下で行われました。第一ファイヤー
ベースの入り口には、いく種類の色の風船で飾られ、お祭りムードを高めるた大ゲートが設置されています。ここに全員が注目し、ビーバースカウトたちは、くす玉を見事に割ってお祭りの開始となりました。一斉に食料屋台とゲーム屋台がオープンしました。
２団の「英語スマートボール」は、やんやの歓声でビンゴが続出しました。最高は、４ビンゴでした。英語の挨拶もところどころできてよかったです。
全体プログラムは、ボーイ隊のエール、ビーバー隊と続き、カブ隊の大阿波おどりで最高調に達しました。私も楽しむために阿波踊りに参加しました。
最後のクライマックスで、豊中地区４０年間の火をつなぐセレモニーが行われました。
会場を照らしていた提灯の明かりが消えて真っ暗になります。厳かな「永遠のスカウト」がスピーカーから流れる中、ビーバー隊、カブ隊スカウト、ＢＳ隊以上のスカウト及び指導者、その他の参加者がそれぞれ大きな円となり、この円を伝って、仲間の手から手へ「豊中の火」が受け継がれていきました。「豊中の火」は、神聖な聖火から点火されて、燃え続いているファイヤーからランプに分火されたものです。全員が、ランプの火を自分の手で大切に受け継ぎ、そして次の人に受け継いだのです。これで豊中地区の伝統を次の新しい地区に生かしていく気持ちになったと思います。

最後の前田委員長の挨拶は、静かにしようという言葉から始まりました。この厳粛なセレモニーが行われている間中、スカウトの声や指導者の声が止むことはありませんでした。わっぱるの夜は、満月はまだ隠れていましたが、森の虫の大合奏が起きていました。「永遠のスカウト」は、必死で私たちの雑音を収めようと格闘しているように聞こえます。近くのスカウトを注意する姿もありました。
これだけの仲間が集うこの場所で、どれだけの人が歴史を感じながら荘厳な雰囲気に浸る瞬間を見過ごしてしまったのだろうか。お祭りの中で、この瞬間しか味わえない貴重な心を震わせるひとときです。「ボーイスカウトは、遊ぶためにだけ集まっているわけではありません」と委員長の悲痛な気持が伝わってきました。でも、この気持ちを振り払い、歌を歌い、明るく次の豊中にバトンタッチしました。

指導者は、最後の瞬間を作りあげられなかったことを反省しないといけません。セレモニーにおいて、静かにする力や静かにさせる力が欠けていることです。元気で声を上げること、大きな声で歌を歌うこと、人の話を聞くことなど日常の活動で行っている基本が大事

な時に発揮できていないです。全体プログラムやゲームなど、能動的に行う計画はすごくよくできていたと思います。でも、雰囲気を作りあげる気持とじっと見守ることには、無力でした。自分自身ができない、スカウトにも気付かせられない、指導のための機敏な行動を起こすこともできなかった。無念なことでした。

私たち指導者や保護者は、セレモニーでの雰囲気作りの名人を目指して行きたいですね。「豊中の火」の前に静かな状態を作ること。例えば、「永遠のスカウト」など静かな歌に集中させること、虫の音が聞こえるほど耳を澄ますこと、夜空を見上げることなどから導入していく。そして、今から行うセレモニーの意味を伝え、思いを一つにさせ、大切なひと時を全員で作る気持にさせるといいでしょうね。
ランプを手渡しするときには、音楽に合わせてハミングすることもよかったと思います。

親子ハイクでは、元気のよい雰囲気、厳粛な雰囲気を楽しみたいと思います。各隊のパフォーマンスにも期待しています。全員でよいひとときを創造しましょう。